

# 特装車 メンテナンスニュース

脱着車 保守編

No.36 2014・6



## 脱着車の点検整備で



## トラブルを未然に予防!!



### 日々、ダメージを受けている駆動部・可動部・油圧装置・作動油

『脱着車は毎日のコンテナ引き上げや荷降ろし作業で脱着装置に高い負荷が掛っております』

- ・駆動装置・可動部・作動油等は日々ダメージを受け気付かないうちに部品の摩耗・カジリ・焼付きや作動油の劣化による重大な故障の原因となる可能性があります。
- ・脱着車を快適に使用するためには、定期点検で装置の状態を把握し、定期的に作動油・オイルフィルタ・油圧ホース・消耗部品の交換が必要です。(各社、取り扱い説明書を参照ねがいます)  
また、搭載するコンテナの状態も把握する必要があります。
- ・互換性がないコンテナをキャリアに積み込むと重大な事故や装置の損傷・破損の原因となります。  
(車体工業会 認定：互換性適合ステッカーを確認ねがいます) ※製作基準適合ステッカーは互換がありません。
- ・脱着車を安全かつ快適に使用するために、定期点検に加え「メーカー推奨点検」を実施しましょう。

### 《日常点検・定期点検整備・消耗部品交換を怠ると大変危険です》

- ★ 劣化した作動油を使い続けると、油圧装置（油圧ポンプ・油圧バルブ・シリンダ等）の油漏れやカジリ・焼付き・破損等の原因となります。
- ★ 給脂「グリスアップ」をしない状態で使い続けると駆動装置・可動部からの異音や摩耗・カジリ・焼付き・錆び・固着により破損の原因となります。
- ★ 各部（可動部・吊上げフック・各ロック部・油圧ホース・各スイッチ類・配線等）の固縛・緩み・損傷等の点検を怠ると作動不良や破損の原因となります。

### 点検を怠るとこんな事になる!



ドライブシャフト破損



コンテナガイド摩耗



作動油不足・劣化汚れ



コンテナロック変形



吊上フック摩耗・変形

※道路運送車両法（第47条の2）日常（運行前）点検・（第48条）定期点検は使用者・運行する者に義務付けられています。

### 重要：脱着車（キャリア）とコンテナの互換性について！

⚠️注意 互換性のない他社製のコンテナをキャリアに積み込まないで下さい。(※コンテナの落下による重大な事故やキャリアの破損原因となります)

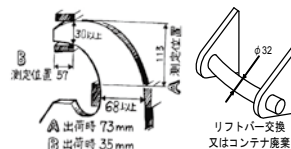
※互換性適合表：キャリアとコンテナに貼り付けられた日本自動車車体工業会発行ラベルで互換性を確認ねがいます。(詳細は各社発行、取り扱い説明書を参照ねがいます)

※キャリア側 吊上フックとコンテナ側リフトバーの摩耗状態!

⚠️警告 吊上フックとリフトバーが異常に摩耗した状態で使用すると、コンテナの脱着操作時にコンテナが落下し、思わぬ事故につながる恐れがあります。

《参考例》 摩耗限度数値 (詳細は各社発行、取り扱い説明書参照ねがいます)

【キャリア側吊上フック】 【コンテナ側リフトバー】



《参考例》4トン級	互換性あり	互換性の保障なし
キャリア 	 ※2トンは青色ステッカーです。	 ※架装メーカー専用コンテナのみ可
コンテナ 	 ※2トンは青色ステッカーです。	 ※架装メーカー専用キャリアのみ可



### 正しいメンテナンスで機械も体も健康体



# 作動油交換・給脂(グリスアップ)はなぜ必要か？

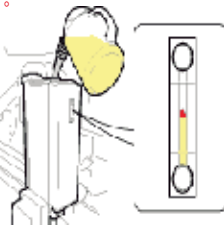
## 作動油交換・給脂(グリスアップ)を怠ると！

- ★油圧装置は高い圧力で作動油が流れるため、著しい温度変化や化学変化による酸化また作動部分から侵入する水分や鉄粉等による作動油の劣化が進みます。  
劣化した作動油を使い続けると精密部品である油圧ポンプ・油圧シリンダー・コントロールバルブ等の内部が傷つき、油漏れ・カジリ・焼付き・破損等の原因となります。
- ★可動部には常に高い荷重・摩擦抵抗が掛っています。  
給脂『グリスアップ』を怠ると可動面に油膜が無くなる事で摩擦力が発生し異常摩耗・カジリ・焼付き等の原因となります。  
特に高い荷重が掛る部分では可動部の固着・カジリ・焼付き現象が発生し最悪の場合は破損する事もあります。  
また油分(油膜)が無くなり、空気や水を遮断できず錆びが発生し固着の原因となります。

## 作動油の管理とグリスアップが必要な箇所

### (参考例：作動油点検・交換)

- ※作動油交換・容量は各社取り扱い説明書を参照ねがいます。  
脱着車の故障を未然に防ぎ、寿命を長くするためには、作動油の定期的な交換が必要です。  
作動油の交換時期については下表をご参照ねがいます。  
また、作動油が少なくなった場合は規定レベル位置まで補給ねがいます。
- ※作動油が少なくなった場合は、油漏れ等が考えられますので直ぐに点検をおこなってください。
- ※オイルタンクの給油口にはホースで水をかけたり高圧(スチーム)洗浄を噴射しないでください。  
オイルタンク内に水が混入し作動不良の原因となります。

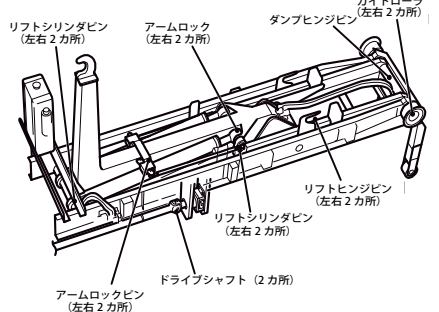


### (参考例：グリス給脂箇所)

時期	要領	種類
2週間に1回	適量	シャシグリス

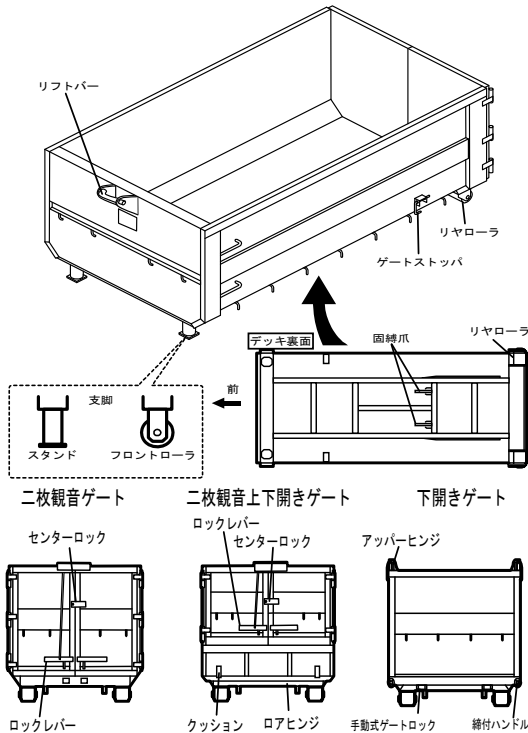
※脱着車(キャリア)およびコンテナ下部(デッキ)の洗車を行った場合、必ず給脂を行ってください。  
※給脂箇所(例)グリス給脂箇所は各社取り扱い説明書を参照ねがいます。

#### 【キャリア】



## コンテナの名称と点検箇所 (名称・点検箇所は取り扱い説明書を参照ねがいます)

【各部の取付け状態(損傷・変形等)ロック作動状態・給脂状態のチェック】

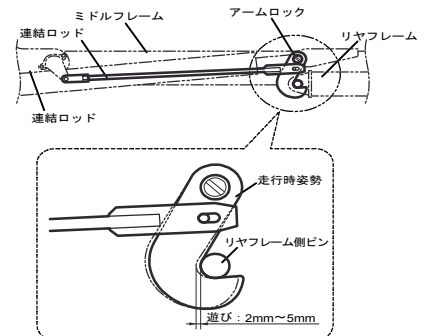


※各連結装置部の作動・給脂・ガタ・変形・摩耗及び固縛部の(ボルト・割りピン等)緩み、外れを点検ねがいます。

※日常点検(運行前)・定期点検は各メーカー取り扱い説明書の点検項目に従い実施ねがいます。

## アームロック装置の点検

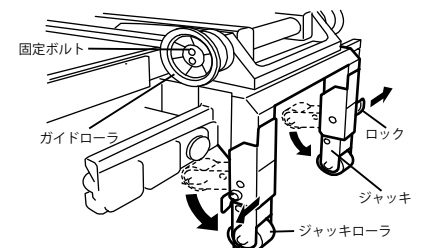
(例)各社取り扱い説明書を参照の事。



※アームロックとリヤフレーム側ピンの間の寸法を点検ねがいます。  
※アームロックや連結ロッドが損傷・変形しているか点検ねがいます。

## ガイドローラ・ジャッキ装置の点検

(例)各社取り扱い説明書を参照の事。



※各ガイドローラのガタ・変形・カジリ・ボルトの緩みを点検ねがいます。  
※ジャッキの変形・ガタ・損傷・動き・ロックの点検ねがいます。

※特装車の点検整備・部品交換は専門的な技術と設備のある、各メーカー指定サービスマン工場でお受けください。